

閑上の魅力を活かした 地域づくりと課題



2014 年 3 月

東北学院大学教養学部地域構想学科

はしがき

2011年3月11日の東日本大震災より4年が過ぎ、被災地の再構築に向けた動きは、着実に前進しています。しかしながら、復興が進むにつれて、被災地では多くの課題に直面していることも事実です。そのような中で、2014年度地域構想学科2年次科目「発展実習（人と自然コース）」では、2011年の津波によって甚大な被害を受けた宮城県名取市閑上地区を対象に、調査実習に取り組みました。

まず、この実習では対象地域に関する文献を調べることからスタートしました。現在は、インターネットで様々な情報が簡単に得られる時代となっていますが、この実習では、あえて地域の図書館や書籍などから情報収集を皆で行い、閑上の歴史、風土、文化、自然などの地域の特徴を学びました。インターネットでの情報収集は手軽ではありますが、地域を深く知ることはできません。学生自身が資料を探し、地域にある文献を手にとって読むことを通じて、「地域に想い」を持って入ってもらうことが重要であると私は感じています。

次に、閑上地域で実際に直面している課題を学ぶため、ゆりあげ港朝市協同組合代表理事 桜井広行さんによる特別講義を行いました。3月11日の被災から、現在に至る復興の過程、そして今抱える地域の課題を丁寧かつ明快にご講義いただき、学生たちが実際の地域の課題を間近で感じることで気持ちに変化していく様子がわかりました。その後、学生たちはそれぞれ各自で調査テーマを設定し、現地調査、聞き取り調査、データの分析、そして授業における報告会での発表を実施しました。学生たちは、何度も地域に赴き、「閑上のために自分たちができること」を考え悩みながら議論を重ね、報告書を作成するまでにいたりしました。限られた時間の中で行われた実習であり、内容的にはまだまだ不十分で的外れな理解も多々あるかとは思いますが、なにとぞご容赦ください。

桜井さんをはじめ、地域の方々にはたくさんのご協力をいただきました。あらためて心から感謝申し上げます。

東北学院大学地域構想学科 発展実習 人と自然コース担当
柳澤 英明

目次

第一章 閑上の魅力を活かした地域づくり	1
---------------------------	---

阿保里奈 菊池収哉 雫石彪真 下田果歩

第二章 ゆりあげ港朝市の発展とこれから	9
---------------------------	---

遠藤諒 桜井健太 伊藤優輔 堀田安見

第三章 閑上の活性化のためのまちづくりとその課題	16
--------------------------------	----

沖忠臣 西崎優吾 大友誠 堀田望

第四章 閑上地区での食育計画	21
----------------------	----

若生有吾 鈴木海斗 高田綾香

第一章

閑上の魅力を活かした地域づくり

阿保里奈 菊地収哉
雫石彪真 下田果歩

1. 背景

震災後、閑上で朝市への来客はあるが、住民が減少している。

過疎化・高齢化・設備維持の観点から現状のままでは、閑上の衰退を招いてしまうため、打開策を考えるための調査を行うこととした。

2. 目的

若者の人口流出を防ぐためないし若者の閑上への移住を促進する方法を模索する。

若者を呼び込むために震災で景観や地元のコミュニティなどの魅力が損なわれた為、新たな魅力の創出の可能性を提示する。

3. 対象地域について(1)

(1) 人口

震災以前(平成23年2月末日) 震災後(平成26年12月末日)

人口 7,103人

人口 2,263人

世帯数 2,551世帯

世帯数 931世帯

(2) 主な産業

水産加工業

3. 対象地域について(2)

(3) 位置・面積



4. 研究概要

(1) 方法

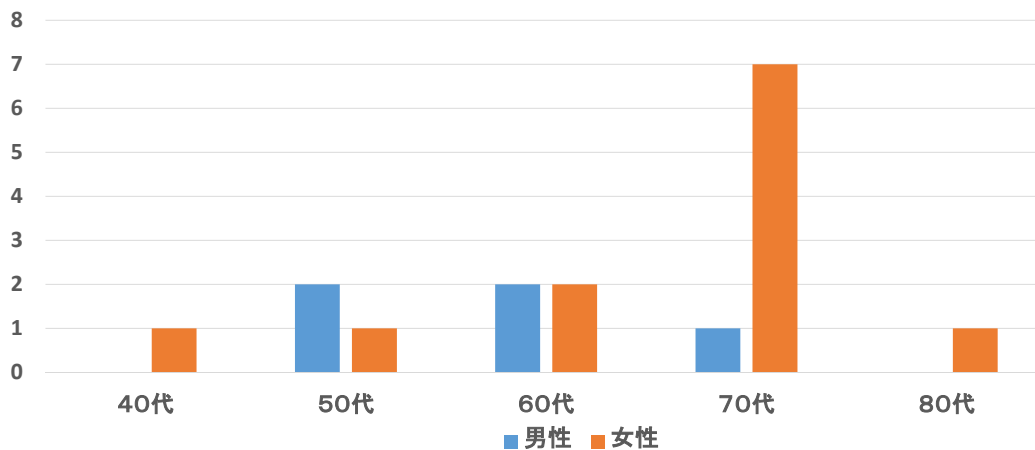
- ① 関上の街づくりについて考えるにあたりアンケート調査を行い、震災前と後を比較する。
- ② 調査によって得たデータと被災者の方々から伺ったお話をまとめ、考察を行う。

(2) 調査対象者

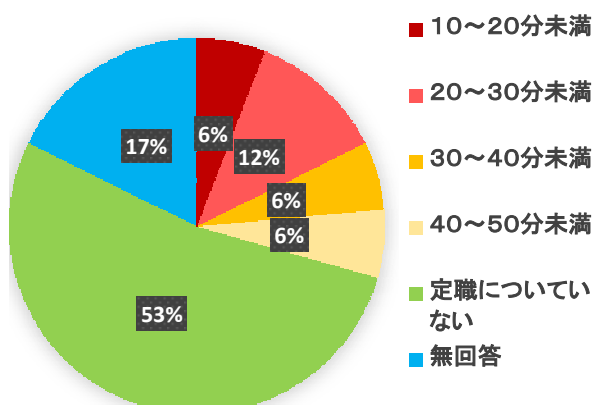
東部愛島地区仮設住宅に住む、関上に居住経験のある方

5. 研究結果

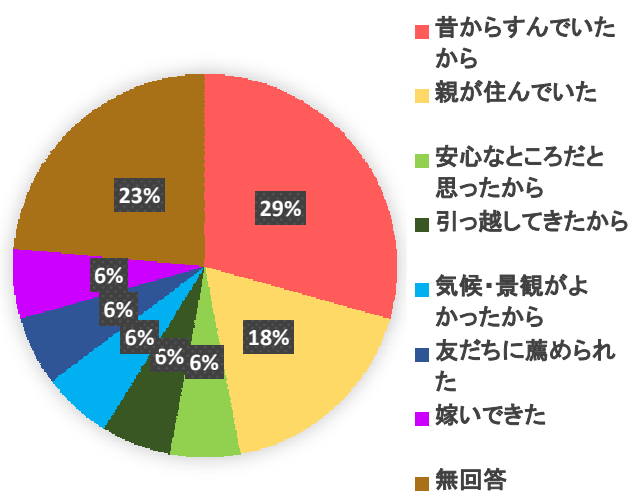
性・年齢別アンケート回答者数



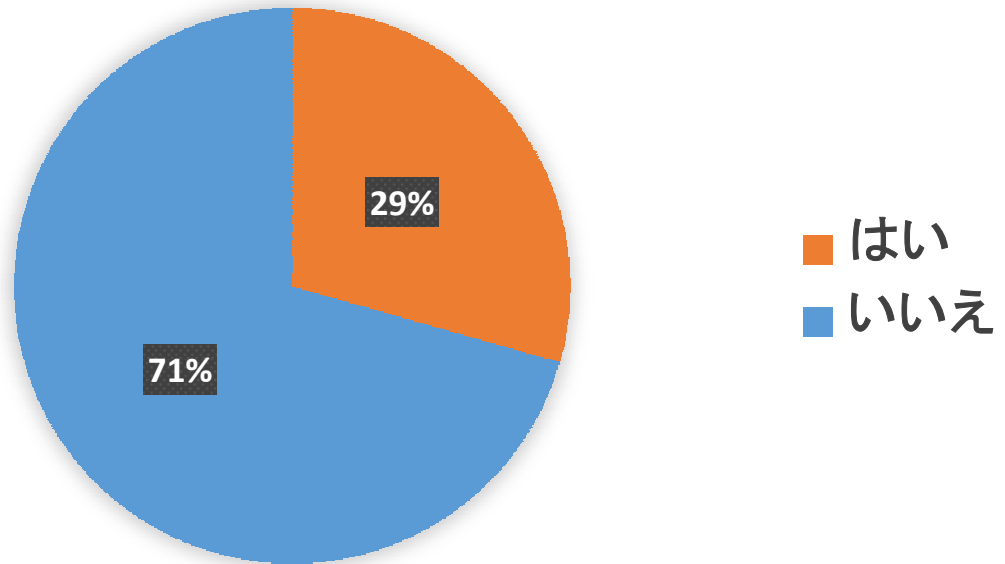
職場までの所要時間



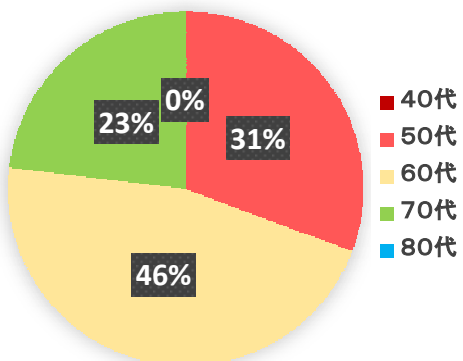
閑上に住み始めた理由



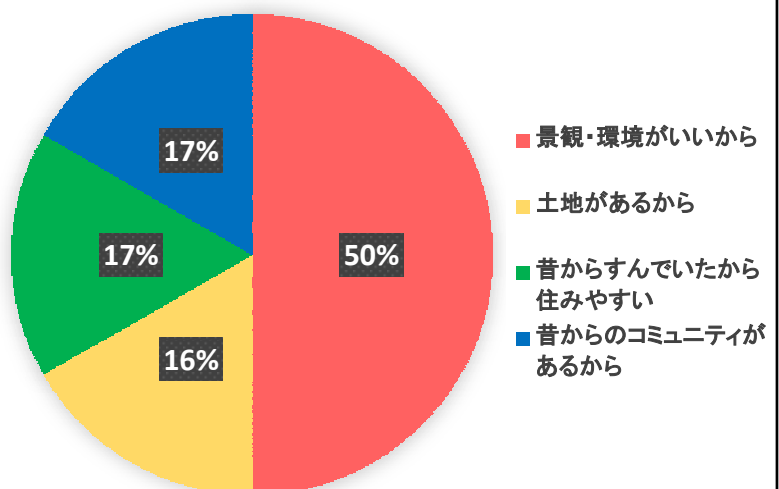
これからも閑上に住みたいか



はいと答えた人の年齢別割合

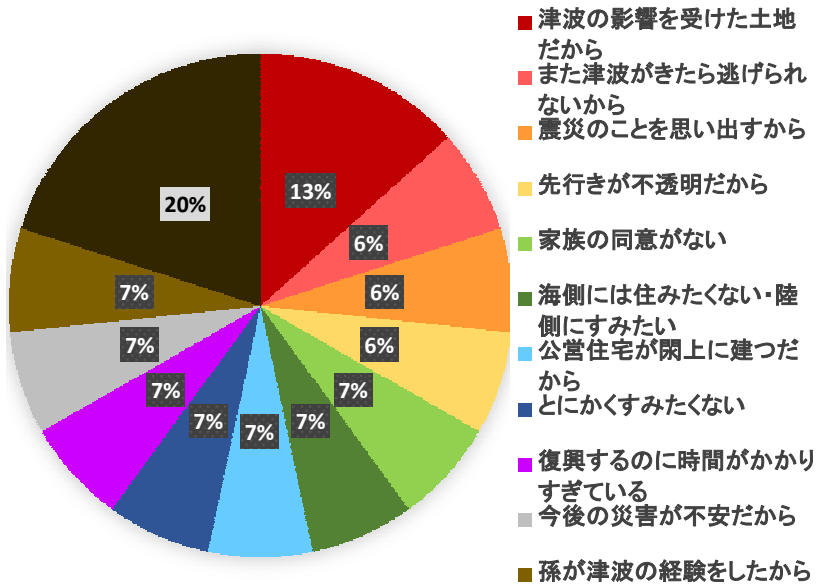
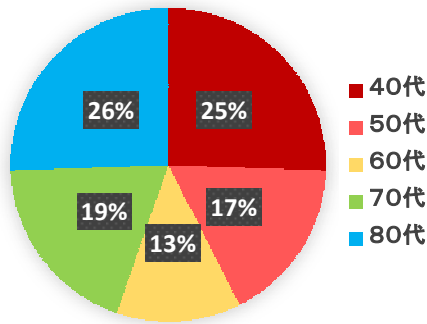


これからも閑上に住みたい理由

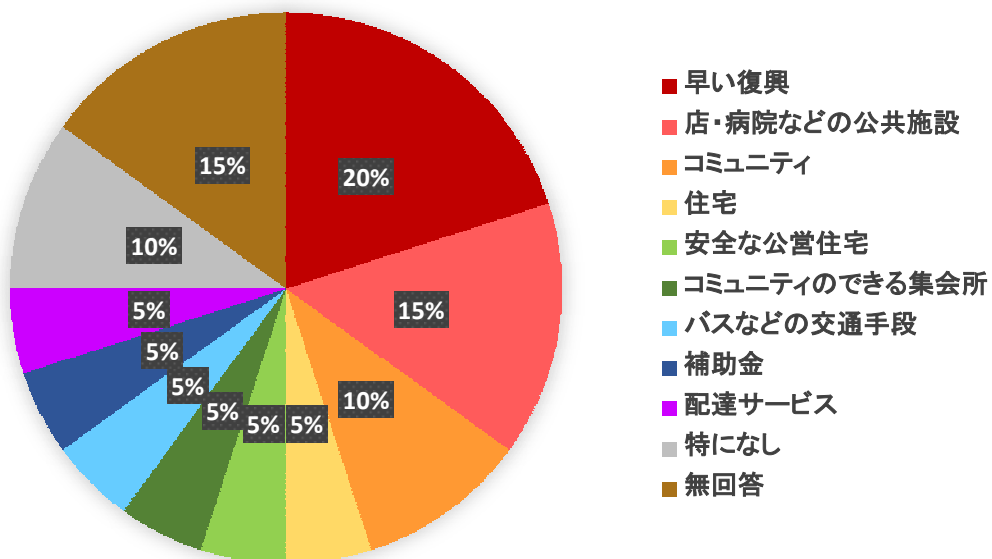


閑上に住みたくない理由

いいえと答えた人の 年齢割合



閑上に必要なもの



6. 考察①

- ・定職についている人はおおむね職場までの所要時間が短いので通勤に便利な立地条件であると思われる
- ・戻りたくない人が多数派であり、その理由も改善するのが困難である



新たな居住者の獲得のほうに
目を向けるべきではないか

7. 考察②

- ・民間企業に委託し、低価格で安全な地域であることをアピールすることで若年層の移住を促進する
- ・数多くある有志団体の意見分立を防ぐため、有志団体の総本部のようなものを作り、円滑なコミュニティ運営を目指し、住みやすい地域に近づける

《付録》

閑上の魅力調査に関するアンケート回答協力のおお願いについて

東北学院大学地域構想学科 阿保里奈 雫石彪真

下田果歩 菊池収哉

東北学院大学地域構想学科 2 年の発展実習という授業で、現在閑上の調査をしています。そこで、閑上に居住経験のある方を対象とした、簡単なアンケートを実施させていただくことにいたしました。つきましては大変恐縮ではございますが下記の質問にお答えいただきたくお願い申し上げます。

なお、記入によって得られた個人情報は目的外に使用することはありません。

問 1.性別をお答えください。

- 1.男性 2.女性

問 2.現在の年齢に当てはまるものを選択して下さい。

- ～10 代 20 代 30 代 40 代 50 代 60 代 70 代 80 代～

問 3.職場（学校）までの所要時間をお答え下さい。

1. 10 分未満 2. 10 分～20 分 3. 20 分～30 分 4. 30 分～40 分 5. 40 分～50 分
6. 50 分～1 時間 7. 1 時間以上

問 4.閑上に居住していて（または居住していたとき）、満足していることはなんですか。

問 5.閑上に今一番必要だと思うものは何ですか。

問 6.これからも閑上に住み続けたいと思いますか。（現在住んでいない方は戻りたいと思いますか）

- 1.はい 2.いいえ

問 7.その理由は何ですか。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

第二章

ゆりあげ港朝市の発展とこれから

遠藤 諒 桜井 健太 伊藤 優輔 堀田 安見

目次

1. 研究背景
2. 目的
3. 対象地域について
4. 研究方法
5. 研究結果
6. 考察
7. 結論
8. 今後の課題
9. 参考文献



1. 研究背景

- 被災地において、地域復興を目指した復興商店街や復興市場等が多く設置された
⇒**年々利用者、観光者が減少**(例：女川町 きぼうのかね商店街等)
- ゆりあげ港朝市の来場者数は**毎週1万人**を超える
⇒その理由を明らかにする必要がある

2. 研究の目的

- ゆりあげ港朝市の発達過程を見直す

そこから…
- 他地域の復興商業施設の活性化を
促すことの出来る要素を見出す



3. 対象地域について① ～閑上地区～

- 江戸時代以前から漁港として栄えた

⇒伊達政宗が掘らせたと言われる日本最長の運河「貞山運河」を使って
仙台城下に海産物を運んだ歴史を持つ

- 人口2000人規模

- 特産物・・・赤貝

3. 対象地域について② ～ゆりあげ港朝市～

- 約40年ほど前から日曜・祝日に

「ゆりあげ港朝市」が開かれるようになる

⇒通常約5000～8000人の観光客が訪れる

- 東日本大震災の発生

⇒一時中断

⇒震災発生3週間後、イオンモールの駐車場を借用し再開

- 2013年12月に全面再開

4. 研究方法

■ 関上朝市を訪れた人の自動車ナンバーを調査する

⇒どこからお客さんが来ているのかデータに表わす

⇒どこから来ているのか分かるとPRなどもしやすい

5. 研究結果

■ 宮城、仙台ナンバーが207台

■ 県外ナンバーが27台

⇒仙台市内が5割、名取市が4割、あと1割が県外
震災前は仙台市と名取市の割合が逆転していた
(仙台市5割、名取市4割)

6. 考察 ～来場者の割合について～

- なぜこのような割合になったのか

- ⇒市街地から車で約1時間以内に朝市にアクセスできる

- ⇒近隣からの来場者が多い

- 元々名取周辺に住んでいた人が仙台に移り住み、来場するようになった

- 被災した地域として県外への認知度は高いが、朝市が行われているという認識はされていない

6. 考察 ～ゆりあげ港朝市の魅力～

- 活気ある雰囲気

- ⇒試食をしないかと声がけされる、呼び込み等が活発に行われる

- 来場者が使用できる炉端焼きスペース

- ⇒その場で買ったものの調理が出来る

- 店舗の種類が豊富

- ⇒若い人も来場しやすい

7. 結論

- 近隣の市街地から多くの来場者が集まる
⇒ 県外からの来場者数も増加させられる可能性高い
- 朝市の歴史が長く、アクセスしやすい立地
- 『被災地』の印象から『朝市の町』へ

8. 今後の課題

- 県外への P R
⇒ まずは県外からの来場者数を増加させる
⇒ 観光地化を進める
- 他市町村の被災地へ P R

9. 参考文献

■名取市ホームページ

<http://www.city.natori.miyagi.jp/>

■東北復興新聞

www.rise-tohoku.jp

■東北ろっけんパーク

tohoku-rochenpark.com

■ゆりあげ港朝市

yuriageasaichi.com/#./about

第三章

閑上の活性化のための まちづくりとその課題

沖 忠臣
西崎 優吾
大友 誠
堀田 望

背景

東日本大震災で被災した名取市閑上地区。
震災から4年近く経った現在、閑上の復興の
遅延が目立っている。

目的

閉上の復興を遅らせている原因を調べ、今後の課題を考察した。

名取市について

- 面積：97.76km²
- 人口：76107人（H26.12月）
→震災前よりも人口が増えている
- 特色：「住みやすさランキング2014年度版」で
全国で10位になる。



「名取市資料より」

閑上について

震災前

特徴: 仙台湾に面した港町
仙台市のベッタウン
人口: 5612人(2011年2月時点)
生産: 赤貝、シャコえび、
サッポロビール工場
かまぼこの佐々直 etc...

震災後

特徴: 沿岸部は更地、
災害危険区域指定
港朝市、さいかい市がある
人口:2010人 (2014年9月時点)
犠牲者:1027名 (2014年9月時点)
生産:漁業
港朝市
さいかい市場

研究方法

- ➡ 日時: 平成26年1月13日(火)
- ➡ 時間: 午前10時~午前11時半
- ➡ 場所: 仙台北務局名取出張所復興・まちづくり課
- ➡ 方法: 職員の方々にヒアリング

研究結果

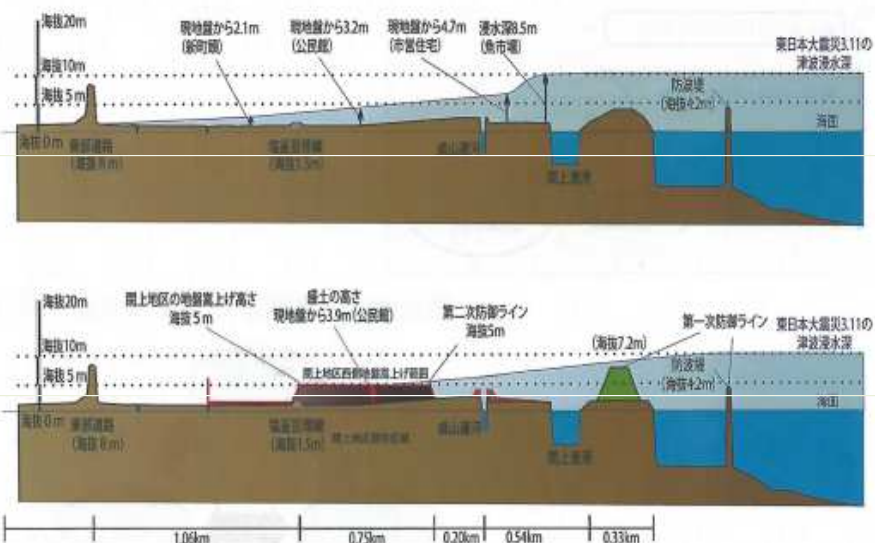
桜井さんの話 (住民側)

- ・市は事業も政策も動くのが遅い。
- ・県外や他の市や町からの住民、企業の誘致が不十分。
- ・津波対策への不安。

行政

- ・防潮堤（第一防御ライン）はほぼ完成している。
- ・かさ上げは海側から進んでいる。
- ・新しく来る企業、人を誘致することは、まだ考えていない。
- ・多重防御で津波の威力を弱める。

関上地区 津波防災対策



「名取市資料より」



考察

住民と市では意見の相違があった。

- 住民との合意形成が難しく、災害市街地復興土地のかさ上げが困難である。
- 現在の政策が進まないことには、若者の雇用や企業誘致にまで手を回せない。
- 現地再建する場合、再び津波の被害が考えられる。



結論

- 復興は目に見える形で進んでいるとは言えないが、ゆっくりと着実に進んでいる。
- 住民の要求に行政の政策が追いついていない。
- 相互理解し、合意形成をしていくことが復興、活性化の道になる。

第四章

閑上地区での食育計画

若生有吾 鈴木海斗 高田綾香

1. 食育とは

国民に「食」に対する理解をしてもらうために、様々な活動を行うことで理解を促す取り組みであり、平成 17 年から食育基本法が施行されている。

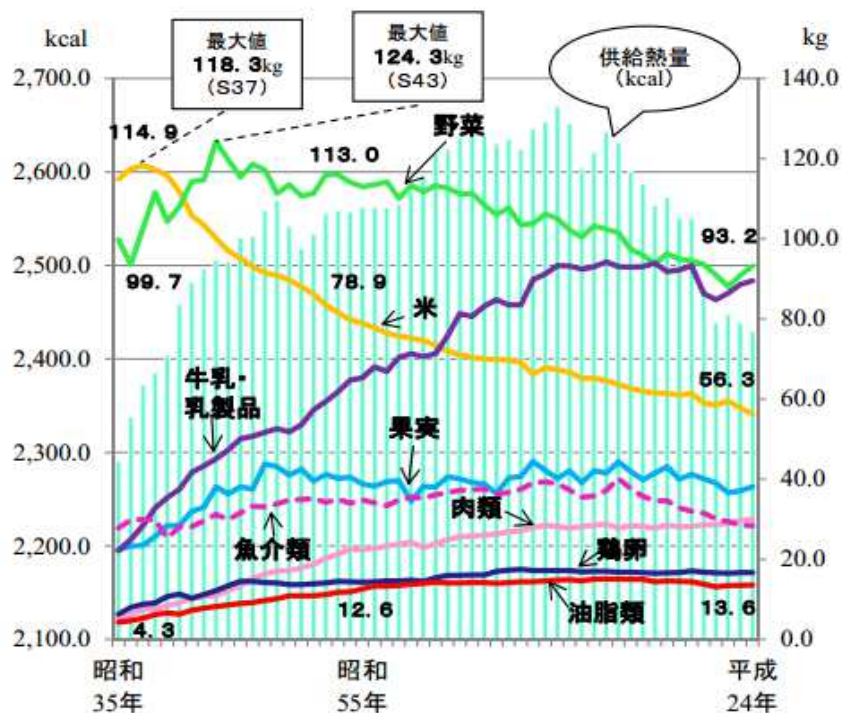
「豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。」－食育基本法前文－

「**第二条** 食育は、食に関する適切な判断力を養い、生涯にわたって健全な食生活を実現することにより、国民の心身の健康の増進と豊かな人間形成に資することを旨として、行われなければならない。」

(国民の心身の健康の増進と豊かな人間形成)

といったことから「食」に関する理解と関心を増進することを国民求めている。社会情勢が変化するにつれて、20 代～40 代を中心に食料消費構造は畜産物・油脂類が上昇し、米・野菜・魚介類は減少傾向にある。

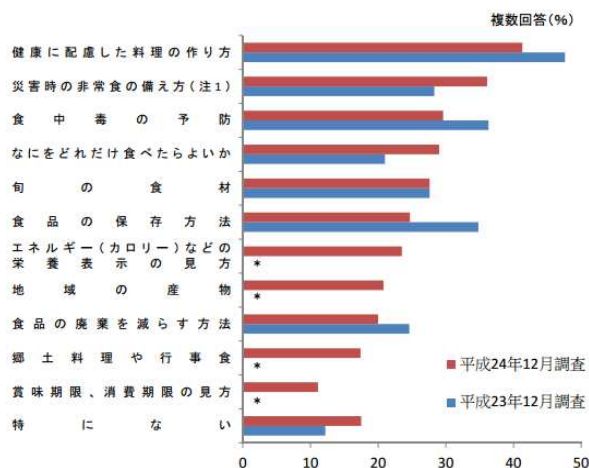
○国民一人当たりの品目別供給量及び供給熱量の推移



資料:農林水産省「食料需給表」

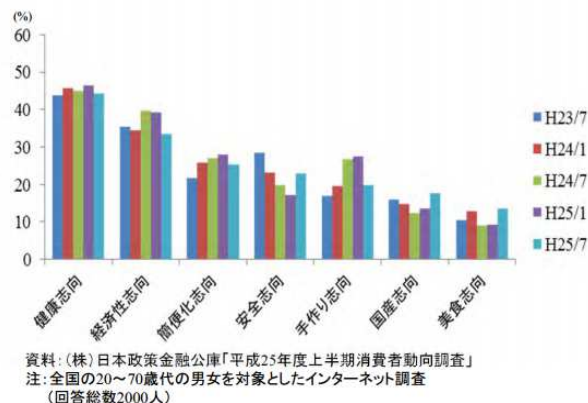
また食への関心が高まる一方で知識の不足が問題とされる。

○食品の選択や調理について今後身につけたい知識



※ *は、調査時にその選択肢がなかったものである。
(注1) 平成23年12月調査では、「災害時の非常食について」となっている。
資料：内閣府「食育に関する意識調査」(平成24年12月)

○食に対する消費者の志向の変化(2つ回答)



資料：(株)日本政策金融公庫「平成25年度上半期消費者動向調査」
注：全国の20～70歳代の男女を対象としたインターネット調査
(回答総数2000人)

健康に配慮した料理の作り方を身につけたい知識として多数回答される。また、消費者は健康志向・経済性志向が高水準となっている。自分で食材を買って料理を実践しようとは考えるが知識不足のために、インスタント食品、加工済み製品を摂取していることが一部背景にある。

2. 閑上での食育

この地域での食育の取り組みとして、魚介類で料理をして食せる人の増加を狙いたい。閑上のフィールドの特徴として大きい点は朝市である。卸売で買い付けされた魚介類や青果物を売りに来る店が建ち並び、多くの客で賑いをみせる。魚を食べる機会が減少している若い人々を対象として、閑上朝市に足を運び、魚を買い、家に持ち帰って調理して食卓に並べるという一連の流れをつくるための食育活動を考える。

◎食育事例―「築地お魚くらぶ」の活動

魚食普及を目的として、魚のノウハウを体験型の料理教室として教えるイベントが築地にて開催されている。基本的な魚の扱いを初心者から学べるものから、難しい魚の捌き方などの活動を行っている。

閑上に並ぶ魚の調理方法を纏めたレシピづくりを学生らで取り組み、対象地域を定めて広報することで魚料理を作ろうと思うきっかけづくりと、閑上朝市に足を運んでもらう集客効果を考えている。朝市に並ぶ魚の種類の調査、調理方法の難易度

(作りやすさ、作りにくさ)、味の傾向、好まれる食べ方などの調査を行っていき
たい。

終わりに

この度はお忙しい中、お話しして頂きありがとうございました。被災地の現状を知り、
自分たちにできることを改めて考えさせられました。地域構想学科として今回考えた
ことを活かしていきたいと思います。誠にありがとうございました。

参考文献

- ・ 食育基本法
<http://law.e-gov.go.jp/html/data/H17/H17H0063.html>
- ・ 築地お魚くらぶ HP
<http://www.tukiji-shimazu.jp/>
- ・ 農林水産省 食生活及び農林漁業体験に関する調査・データ
<http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/jissen-datesyu.html>
- ・ 農林水産省 食と農林水産業について知ろう、考えよう（食育の推進）
<http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/>
- ・ 我が国の食生活の現状と食育の推進について PDF ファイル
http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/pdf/genjyo_kadai4.pdf

2014 年度 地域構想発展実習（人と自然コース）報告書

「閑上の魅力を活かした地域づくりと課題」

発行日：2015 年 3 月 31 日

発 行：東北学院大学教養学部地域構想学科

「地域構想発展実習（人と自然コース）」

編 集：柳澤英明（東北学院大学教養学部地域構想学科 講師）

連絡先：東北学院大学教養学部 地域防災研究室

〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目 1 - 1

電 話：022-773-3504

Email：h-yanagi@mail.tohoku-gakuin.ac.jp